

学校教育目標	未来に向かって 学び続ける	経営理念	<信頼される乃美尾小教育の創造> 【めざす学校像】 あいさつの響くわくわく感のある学校～楽しい・やさしい・元気な学校～ 【めざす児童像】 豊かな感性をもち、のびゆく 「最後まで 粘り強くやりぬく子」「人や環境を大切に 感謝できる子」「自分や友達の命を大切にできる子」 【育てたい資質・能力】『言葉の力』『思考力』『主体性』『感性』 【めざす教職員像】 「子供に寄り添い 学び続ける教職員」「チーム力を発揮できる教職員」「信頼される教職員」
--------	---------------	------	--

評価計画							自己評価				学校運営協議会による評価		改善方針	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							9月	2月						
確かな学力	1	○主体的に学ぶ児童の育成	○基礎学力の定着 ○「わかる・楽しさを感じる」ことのできる授業づくり ○読書活動の推進	・計算コンテストの実施による基礎学力の定着と朝会での認知機能の強化 ・個別最適な学びや協働的な学びを取り入れた主体的な学びの推進 ・発達段階に応じた指導方法の工夫や教職員間での協働的な教材研究による授業改善 ・学校図書館の充実と図書委員会の活動や活性化による読書に対する意欲の向上。	・算数科単元テストで、70%以上を達成した児童の割合 ・算数の学習で、「分かった」「もっとやりたい」と感じることができた児童の肯定的評価の割合(アンケート) ・問題ができたとき楽しいと感じることができた児童の肯定的評価の割合(アンケート) ・読書記録及び貸出量の集計による読書量低学年70冊、中学年60冊、高学年50冊	1～3 90% 4～6 85%	1～3 84% 4～6 89.7%	1～3 88% 4～6 79.5%	98%	2	B	・目標値の設定を考える必要がある。高学年が「楽しい」と感じる授業づくりを期待している。 ・高学年による読み聞かせはよい取り組みだ。 ・中年は算数でつまづく児童が多くなる印象があり、個別支援の充実を期待する。(保護者の協力も必要) ・読書活動について、目標を大きく下回った結果となったことは重大な課題としてとらえる必要がある。結果と課題の分析から、来年度は重点課題と位置づけて具体的手段の実践を期待する。(低学年から高学年のある図鑑に親しむようにさせる。ひも月〇冊といった短期目標等) ・主体的な授業の展開を継続して取り組んでもらいたい。 ・今年度の目標を踏まえ、明確に取り組んでいる。 ・基礎学力の定着を図るとともに、個別の対応により学力を高めてほしい。 ・学校司書と連携し、魅力ある図書室づくりを努める。	・来年度は児童数(1クラス当たりの児童数)が減少するので、目標値の設定を妥当なものにする。 ・はなまる朝会の内容をタブレットからドリル学習に変更し、基礎学力の定着を図る。 ・児童が主体的に学び、楽しんで学力が付けられるよう、楽しんで読書していく。 ・読書量に関しては、児童の実態に応じた目標値の見直しと読書朝会の時間の確保を行う。	
豊かな心	2	○人や環境を大切にし、周りの人やものに感謝できる児童の育成	○保護者・地域と運動した挨拶運動の推進 ○基本的な生活習慣の確立 ○創造的・支持的風土の醸成	・元氣なあいさつ、返事ができる児童の割合(児童アンケート) ・はきものをそろえることができる児童の割合(はきものそろえチェック) ・「あいさつや返事ができている」「学校や家庭の約束(きまり)を守って生活している」(保護者アンケート)の肯定的評価 ・「頑張った」「人の役に立った」「友だちと協力して活動できた」の肯定的評価(児童アンケート)	・元氣なあいさつ、返事ができる児童の割合(児童アンケート) ・はきものをそろえることができる児童の割合(はきものそろえチェック) ・「あいさつや返事ができている」「学校や家庭の約束(きまり)を守って生活している」(保護者アンケート)の肯定的評価 ・「頑張った」「人の役に立った」「友だちと協力して活動できた」の肯定的評価(児童アンケート)	85% 90% 80% 80%	85.6% 92% 89.9% 84%	89.7% 92.9% 95% 89.3%	108% 103% 119% 112%	4	A	・「子供を褒めて育てる」ことを実践されている。学習発表会とはとても良かった。 ・学校内外で黒瀬・東広島スタンダードが定着していると評価されたことは素晴らしい。挨拶週間を参観日と重ね、保護者や地域の方に見てもらおうとよい。 ・近年挨拶が活発に行われていると感じる。教員の地道な取組の成果と強く感じる。 ・児童自らが主体的に挨拶を行っているか分析も必要である。 ・自己肯定感を高めるための取組として、帰りの会でのよいところみつけ、全校集合時に、頑張ってくれた学年、個人を紹介するなどの取組を継続していく。	・あいさつ週間、全職員で取り組もうという意識をもち、全校であいさつを徹底していく。また、保護者や地域の方が集まる参観日などをよい機会ととらえ、積極的にあいさつができるよう、学級指導を行う。 ・自己肯定感を高めるための取組として、帰りの会でのよいところみつけ、全校集合時に、頑張ってくれた学年、個人を紹介するなどの取組を継続していく。	
健やかな体	3	○命を大切に、安全な行動と、健康でバランスの取れた体力・運動能力を向上させようとする意欲と実践力の育成	○基礎体力の向上 ○外遊びの励行 ○安全意識の高揚	・体育科授業の工夫 ・体育朝会及び遊び朝会の工夫 ・縄跳びチャレンジウイークの実施 ・委員会による外遊びの啓発 ・達成者の掲示や放送での紹介 ・右側歩行の徹底	・縄跳び前跳び(低…30秒間、中…1分間、高…1分30秒間)跳び続けられる児童の割合 ・縄跳び後ろ跳び(低…15秒、中…30秒間、高…45秒間)跳び続けられる児童の割合 ・休憩時間以外で遊ぶ児童の割合 ・右側歩行ができる児童の割合(児童アンケート)	90% 75% 90% 80%	59% 43% 72% 74%	81% 72% 81% 70%	89% 96% 90% 87.5%	2	A	・前期と比べると達成率が増えた。12月に行った縄跳びチャレンジウイークで達成した児童や2月の体育朝会で達成した児童もおり、継続した取組がこの結果につながった。また、チャレンジウイークでは、すでに前跳びと後ろ跳びの目標を達成した児童も、いろいろな取組を取り入れるよう作成した「万葉集かなわびチャレンジカード」を持って多くの児童が参加した。 ・休憩時間の外遊びについては、前期と比べ増えたものの90%には達しなかった。毎週水曜日の大休日は健康委員会と連携し、外遊びの放送してもらったり教員も声かけしてもらったり見守ることで少しずつ増えた。児童アンケートととも、外で遊ぶことの楽しさや、外遊びの種類を増やすなどの工夫も必要だと考える。 ・右側歩行は、前回は低くできていないと答えられた児童は、高学年が多かった。教員の声かけも大切に考える。	・前回の協議会の意見が反映されていて、新しい取組が良い。(大綱) ・縄跳びにこだわらず、学校全体で取り組める活動があるとよい。(青空班でクラスマッチなど) ・目標値を概ね達成しており、成果が出ていると感じる。引き続き縄跳びを体育と遊びの両面での推進をお願いする。 ・縄跳びチャレンジカードの作成等が意欲的に取り組む姿につながっている。 ・暑さ等安全面に配慮し、運動できるよう検討する必要がある。 ・遊具等を利用して短時間のサーキット運動を取り入れてはどうか。	
信頼される学校	4	○地域とともにある学校づくりの推進	○保護者・地域連携と学校の取組の積極的発信 ○働きがいのある職場づくり	・コミュニティ・スクールの推進による体験活動の充実 ・月1回以上の発行とHPの更新による地域や保護者へのタイムリーな情報発信 ・地域協力隊による体験活動の実施、各学年前期・後期に各1回以上 ・保護者アンケートの肯定的評価が90%以上 ・相談しやすい職場であると答える教職員の割合85%以上	・コミュニティ・スクールの推進による体験活動の充実 ・月1回以上の発行とHPの更新による地域や保護者へのタイムリーな情報発信 ・地域協力隊による体験活動の実施、各学年前期・後期に各1回以上 ・保護者アンケートの肯定的評価が90%以上 ・相談しやすい職場であると答える教職員の割合85%以上	100% 90%	100% 99%	83.3% 100%	83.3% 111%	2 4	A	・CSをうまく活用されている。学校だけでなくカラードで工夫されている。 ・体験活動は継続してほしい。学習ボランティアは協力していきたい。 ・感謝の会への参加者が多く、地域との連携ができている。 ・令和7年度から地元自治協議会の月例会に学校長が参加して、学校からの連絡が滞り、地域との距離が縮まったと感じる。 ・運営協議会のワーキング資料が分かりやすかった。また教員が分担して説明しており、コロナ禍以降教員の顔が見える体制が両面できていると感じる。 ・CS授業(体験活動)において一部未達成が見受けられる。一方原因も分かっており対応策から次年度に向けて改善が期待できる。再構築の必要もあるのではないかと。 ・児童による地域貢献において検討の余地あり。ふれあい館やさくら園での地域交流の際に、施設の方々も清掃活動とかができればどうか。	・体験活動と学校行事の時期の確認、再考を図っていく。 ・体験活動の内容を見直し、充実したものにする。	
						85%	90.9%	92.3%	7109%	4	A	・風通しの良い職場は大切である。 ・教職員の負担が多いので、持ち帰り仕事を減らせる取組があるように。 ・運営協議会の進行にあたり、学校長がビジョンや目標を説明し、これを実現するための手段を教員が説明するの分かりやすさ。教員間々から説明を聞けたのが安心で良かった。 ・CS協力隊候補に教員も参加し、距離が縮まったと感じる。一方、協力隊の参加率が低く、協力隊員に参加可能な時間を聞くことも改善が求められる。 ・時間外勤務の削減に効果が出ている。	・心理的安全性を意識し、より意見の出しやすい職場を目指す。	

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示す

■自己評価

4...目標を上回って達成
2...目標をやや下回って達成

3...目標どおりに達成
1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)

A...とても適切である
B...概ね適切である
C...あまり適切でない
D...全く適切でない (N...判定できない)